

2016年12月改訂

貯法 室温保存

	パナセラン・F液	パナセラン・Hi
承認指令書番号	14生畜第1556号	14生畜第1557号
販売開始年月	昭和51年2月	昭和61年5月
再審査結果公表年月	平成13年7月30日	

動物用医薬品

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

プロスタグランジンF₂α製剤

劇 パナセラン[®]・F液 劇 パナセラン[®]・Hi

ジノプロストは、一般にプロスタグランジンF₂αとして広く知られ、人・牛・豚・羊などの精液や臓器等、生体内各部から見いだされる不飽和脂肪酸です。

【成分及び分量】

品名	パナセラン・F液
有効成分	日局ジノプロスト
含量	1 mL中 2 mgを含有

品名	パナセラン・Hi
有効成分	日局ジノプロスト
含量	1 mL中 5 mgを含有

【効能又は効果】

1) 牛

- (1) 性周期の同調
- (2) 黄体退行遅延に基づく卵巢疾患の治療
- (3) 卵巢中の黄体退行作用による子宮疾患の治療
 - ① 子宮蓄膿症
- (4) 卵巢中の黄体退行作用による妊娠期疾患の治療
 - ① 長期在胎, ② ミイラ変性胎子及び胎子浸漬
- (5) 子宮平滑筋の収縮作用による産後疾患の治療
 - ① 胎盤停滞, ② 悪露停滞症

2) 馬

- (1) 性周期における黄体期の短縮
- (2) 黄体退行遅延に基づく卵巢疾患の治療

3) 豚

- (1) 無発情の治療(黄体の退行遅延ないし遺残に基づくもの)
- (2) 分娩誘発

【用法及び用量】

1) 牛

(1) 子宮内注入法

① 性周期の同調

通常下記により1回投与する。

投与部位	投与量
黄体形成卵巢側子宮角深部	ジノプロストとして 2 mg
黄体形成卵巢側子宮角中央部	ジノプロストとして 3～4 mg

② 卵巢疾患の治療

通常下記により1回投与する。症状により適宜増減する。

投与部位	投与量
疾患卵巢側子宮角深部	ジノプロストとして 6 mg

(2) 注射法

① 性周期の同調

通常ジノプロストとして12～30 mgを1回筋肉内に注射する。

但し、胚(受精卵)移植のための性周期の同調に用いる場合は、ジノプロストとして25～30 mgを1回筋肉内に注射する。

② 黄体退行遅延に基づく卵巢疾患の治療

通常ジノプロストとして12～30 mgを1回筋肉内に注射する。

③ 卵巢中の黄体退行作用による子宮疾患の治療

(子宮蓄膿症)

通常ジノプロストとして30 mgを1回筋肉内に注射する。

④ 卵巢中の黄体退行作用による妊娠期疾患の治療

(長期在胎, ミイラ変性胎子及び胎子浸漬)

通常ジノプロストとして20～30 mgを1回筋肉内に注射する。

⑤ 子宮平滑筋の収縮作用による産後疾患の治療

(胎盤停滞, 悪露停滞症)

通常ジノプロストとして30 mgを1回筋肉内に注射する。

2) 馬 黄体期の短縮及び卵巢疾患の治療

通常ジノプロストとして3～6 mgを1回筋肉内に注射する。

3) 豚

(1) 無発情の治療

通常ジノプロストとして6 mgを1回筋肉内に注射する。

(2) 分娩誘発

母豚の妊娠末期(妊娠112～113日)に通常ジノプロストとして5～10 mgを1回筋肉内に注射する。

【使用上の注意】

「基本的事項」

(1) 守らなければならないこと

(一般的注意)

・本剤は要指示医薬品であるので獣医師の処方箋・指示により使用すること。

- ・本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- ・本剤は用法・用量を厳守すること。
- ・本剤投与後第1回目に搾取した牛乳は、食用を目的として出荷等を行わないこと。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・小児の手の届かない適切な場所に保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けて保管すること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・妊娠中の女性、喘息患者、気管支その他呼吸器系に障害のある者に、注射作業を行わせないこと。

(対象動物に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱い上の注意)

- ・本剤(バイアル)を分割使用する場合は、速やかに使用すること。

「専門的事項」

①対象動物の使用制限等

- ・本剤を妊娠している牛・馬・豚に用いると流産することがあるので、下記の治療に用いる場合を除き受胎していないことを確認の上使用すること。

牛：長期在胎、ミイラ変性胎子及び胎子浸漬、胎盤停滞

豚：分娩誘発

- ・牛の性周期の同調に用いる場合は、排卵後5～16日の期間の黄体期にある牛に対し使用すること。
- ・馬の黄体期の短縮に用いる場合は、排卵後5～13日の期間の黄体期にある馬に対し使用すること。
- ・牛の長期在胎に用いる場合は、分娩予定日を1週間以上経過した牛に対し使用すること。

②重要な基本的注意

- ・本剤は示された上限量を超えると発情徴候が微弱になる場合があるので注意すること。
- ・豚の分娩誘発に用いる場合は、特に妊娠期間に留意し子宮内及び静脈内に投与しないこと。
- ・牛の胎盤停滞に用いる場合は、胎子娩出後12～24時間の間に投与することが望ましい。
- ・牛の子宮内注入の場合には、子宮感染の発生を予防するため本剤投与に使用する器具は十分に消毒すること。
- ・牛の長期在胎に用いる場合に、胎子娩出後に胎盤が停滞することがあるので注意すること。

③副作用

- ・馬に投与した場合、一過性の発汗を認めることがある。

【薬理学的情報等】

・一般薬理

ジノプロストは中枢神経に対し、弱い抑制作用を示し、呼吸および心運動に対しては亢進作用を有する。末梢血管に対しては若干の血管収縮が認められる。平滑筋に対しては最も作用が著明で50～100 ng/mLの濃度で消化管および1～2 ng/mL濃度で子宮の収縮をしめた。しかしながら、鎮痛、筋弛緩、抗痙攣、局所麻酔などの作用はなく、起炎性および潰瘍発生、腸管輸送能にも影響がみられず、血液および尿、胆汁排泄に対しても全く影響は認められなかった。

【包装】

㊟ パナセラン・F液(1 mL中 日局ジノプロスト 2 mg含有) 6 mL × 5 (バイアル入り)
30 mL × 1 (バイアル入り)

㊟ パナセラン・Hi(1 mL中 日局ジノプロスト 5 mg含有) 3 mL × 5 (バイアル入り)
5 mL × 5 (バイアル入り)
30 mL × 1 (バイアル入り)
60 mL × 1 (バイアル入り)

【製品情報お問い合わせ先】

Meiji Seika ファルマ株式会社
生物産業事業本部 動薬飼料部
〒104-8002
東京都中央区京橋二丁目4番16号
<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

販売元

Meiji Seika ファルマ株式会社

〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16

製造販売元

フジタ製薬株式会社

東京都品川区上大崎2丁目13番2号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。

(2016年12月改訂)

パナセラン®は、Meiji Seika ファルマの登録商標です。

A-DPANHF

R00